

# 探訪 北の風景 ⑫

国際交流と農業の拠点に  
「たつぷの湯」生かした道の駅  
石狩管内・新篠津村

萩本和之

春の使者・ハクチョウ飛来を見にいらつしゃいませんか？

その場所は札幌郊外の「自然のレジャーパーク」として静かな人気を呼んでいる石狩管内新篠津村の「道の駅しんしのつ」。札幌や苫小牧などからの入り込み客のほか、いまやタイからの観光客が急増している。

道の駅は5年前に温泉宿泊施設「たつぷの湯」（三浦衛支配人、1997年開設、ナトリウム塩化物強塩泉かけ流し）をそのまま生かして登録。「グリーン農業先進地」の成果を並べた産直市場が5月から夏季開業されている。そばには石狩川



をせき止めてできた三日月湖「しのつ湖」と、キャンプ場やパークゴルフ場、展望台が完備した「しのつ公園」。さらに「ニューしのつゴルフ場」（18ホール）もあり、魅力が満載のゾーンとなっている。道道江別奈井江線沿いで、国道に面していないために、いま一つ立ち寄りにくいものの、「しのつ湖」では冬にワカサギ、夏はコイやフナなど年間を通しての釣りのメッカのほか、夏には手こぎボートや水陸両用車などの水遊びも楽しめるレジャーゾーンとなっている。また毎年2月の婚活パーティーや8月のジャンボ流しそらめんの会場ともなっており、年間23万人前後の利用者がいる。「たつぷの湯」での宿泊メリットの一つに体験農園がある。料理長の小岩靖志さんが地元の農家へ働きかけてはじめ、宿泊者はメロンや平飼卵などを希望の畑で収穫体験ができるもので、味噌づくりなどにもチャレンジできる。

快晴の3月8日に道の駅を訪ねてみると、日帰り入浴客らで混雑していた。一方、裏側と北側の2カ所の釣り場では朝7時から約200人の親子連れや若者グループが50基前後のビニールハウスにそれぞれ入り、ワカサギ釣りに歓声を上げていた。釣り人は用意されている釣りざおにエサを付けて、既に開けられている氷の穴に釣糸を垂れていた。3月になると、産卵期のため2月に比べると思うようには釣れないものの、札幌からきた親子は「ここは初めて。手ぶらで来て楽しめるのが



村内外からの日帰り温泉客やワカサギ釣りらで混雑する「道の駅しんしのつ」。館内では特産品のキムチなどの販売もしている

魅力です」と体長3〜6フィの約10匹の釣果を喜んでいた。「ワカサギはこのレストランで天ぷらにしてもいい、昼食と一緒に食べます」とも。3月15日に閉鎖した。

いま村ぐるみで取り組んでいるのがタイ人観光客の誘致。昨年枝幸町の「うたのほりグリーンパークホテル」で年間千人強のタイ人が訪れているのを知り、現地視察などをもとに、「たつぷの湯」を改装して、公衆無線LANを完備し館内案内はタイ語や英語も付け加え、餅つきや茶道を楽しめるようにした。

既にタイの旅行代理店関係者を招いたほか、札幌在住で北海道の魅力をタイに発信している北海道タイドットコム（サムット・トウンサリーカセー）トさんに村観光戦略アドバイザーを委嘱した。サムットさんの紹介で3月19日には20人のタイ教職



「雪や寒さ、さらに日本文化や伝統も体感できて、最高!」と、餅つきに歓声を上げるタイの旅行者(「たつぷの湯」提供)



屋外でワカサギ釣りを満喫する札幌からの親子連れ。後ろに立ち並ぶビニールハウスの中も釣り客がいっぱい＝「しのつ湖」北釣り場

員が村を訪れ、村立新篠津小学校を視察して児童との触れ合いや給食の試食などをした後、「たつぷの湯」に宿泊し、日本文化を満喫した。

東野敏男支配人代は「簡単なタイ語を学びましたが、後は従業員全員でハートで対応しています」と話している。2月末までに263人だけだが、「今後の入り込み増は大いに期待をしている」と村総務課の瀬能裕樹地域振興係長はいう。

こうした取り組みは道の交流型国際観光地づくりモデル事業にも選定されており、村の観光協会事務局長でもある橋場正・村産業建設課産業連携係長は「農産物のブランド化、高付加価値化にも貢献できる」としている。村内にはオーガニック農業を続け、昨年日本農業賞大賞などに輝いた「大塚ふあーむ」などもあり、道の駅を拠点にした新たな北海道農業の可能性を暗示している。

(はぎもと かずゆき・大学非常勤講師)